

## 稲生 永略歴

一九三二年九月二日 大阪府吹田市千里山に生まれる。

兵庫県西宮市安井尋常小学校、福岡県小倉市日明国民学校、山口県防府市華浦国民学校、山口県立旧制防府中学校、京都府立旧制京都第二中学校、福井県立旧制福井中学校、福井県立藤島高等学校を経て、

一九五三年四月、東京大学教養学部文科第二類入学。

一九五五年四月、東京大学文学部仏蘭西文学科に進学。一九五七年三月、同卒業、文学士。

一九五九年四月、東京大学大学院人文科学研究所フランス語フランス文学専攻修士課程入学。一九六一年三月、同修了、文学修士。同年四月、同博士課程に進学。

一九六二年十月より一九六四年十二月まで、フランス政府給費留学生としてパリ大学文学人文科学学部留学、カステックス教授に師事。

一九六五年三月、東京大学大学院博士課程中退。

一九六五年四月より一九六六年十一月まで、東京大学文学部仏蘭西文学科助手。

一九六六年十月、明治学院大学文学部フランス文学科専任講師。一九六九年四月、同助教授。

一九七〇年四月、立教大学助教授（文学部フランス文学科）。一九七五年四月、同教授。

一九九八年三月、立教大学を定年により退職。同年五月、立教大学名誉教授。

この間、東京日仏学院、國學院大學、明治学院大学、東京大学教養学部、同教養学科フランス科、外務省研修所等の非常勤講師を務める。

専攻 十八・十九・二十世紀フランス文学、フランス学。写真家。

日本フランス語フランス文学会、日本十八世紀学会会員。

（稻生 永編）

## 稲生 永主な業績

主要論文 「ネルヴァルにおける女性神話の形成とその構造 (一)・(二)」〔明治学院論叢〕第一一一号・一二五

号、一九六六・六七年)、「ネルヴァルの黒い幻想 (一)」〔明治学院論叢〕第一六九号、一九七〇年)、「ネルヴァル『バンドラ』の謎」〔立教大学フランス文学〕(一)・一九七一年)、『*Le Soleil Noir de Gérard de Nerval — essai sur Aurélia (Etudes de Langue et Littérature Françaises, no 18, 1971)*』「ネルヴァルの黒く太陽」〔思潮〕第六号「ネルヴァル特集」、一九七二年)、『墓碑銘 *ÆRIA LÆRIA CRISPIS* の秘義』〔立教大学フランス文学 (二)〕、一九七二年)、「ネルヴァルの終末思想」(同 (三)・一九七三年)、『神秘の墓碑銘 *ÆRIA LÆRIA CRISPIS* 再論』(同 (四)・一九七四年)、「隠秘思想の誘惑——ネルヴァル論」〔ユリイカ〕臨時増刊「オカルティズム」特集、一九七四年)、「ネルヴァルと古代インド思想の幻 (一)」〔立教大学フランス文学 (五)〕、一九七五年)、「ネルヴァルの天国と地獄」〔フランス手帖〕第五号、CEH 編集部、一九七六年)、「ランボーの黒い幻想——「地獄の一季節」試論」〔カイエ〕一九七八年九月「ランボー」特集号)、「女王の幻——ネルヴァルの女性神話」〔カイエ〕、一九七九年二月「ネルヴァル」特集号)、「ネルヴァルとメスマーの動物磁気説 (一)」〔立教大学フランス文学 (二二)・一九八二年)、「ネルヴァルとメスマーの幻」〔立教大学フランス文学 (二〇)・一九九一年)。

主要著書・翻訳 『新集世界の文学・ネルヴァル・ボードレール集』(ネルヴァル『オーレリア』の全訳と年譜、中

央公論社、一九七〇年)、『ヴァレリー全集補巻』(ポール・ヴァレリー年譜・共編、筑摩書房、一九七一年)、『パ

リとフランス』(ブルーガイド海外版、共著、実業之日本社、一九七一年)、澁澤龍彦編『エロティシズム』(女神イシス変幻——ネルヴァルの女性神話試論)を執筆、青土社、一九七三年。河出文庫、一九九九年)、『ネルヴァル全集』(全三巻、共同編集・翻訳・訳注・年譜、筑摩書房、一九七五年)、『ランボー全集』(全三巻、共同編集・

翻訳・訳注・解題、人文書院、一九七六年)、『事典・現代のフランス』(共同編集・執筆、大修館書店、一九七七年、及び増補新版)、『フランス文学講座・五・思想』(神秘主義の誘惑——ロマン派の場合)を執筆、大修館書店、一九七七年)、『世界文学全集・ネルヴァル・ロートレアモン集』(ネルヴァル『オーレリア』の全訳・『東方旅行・序章』の抄訳・年譜、講談社、一九七八年)、『魔法の地理学——フランス文学紀行』(白水社、一九八〇年)、『写真集・フランスの歴史と文学』(大修館書店、一九八〇年)、『パリ』(ブルーガイド海外版、共著、実業之日本社、一九八〇年)、ダントネン『パリのメスマー——大革命と動物磁気催眠術』(翻訳、平凡社、一九八七年)、『モーツァルトの旅』(全五巻、共著、音楽之友社、一九九一―九二年)、『パリ』(ブルーガイド・ワールド、共著、実業之日本社、一九九四年)、『ベートーヴェン音楽散歩——ウィーン・ボン・プラハ』(音楽之友社、一九九四年)、『シューベルト音楽散歩——さすらい人の足跡を求めて』(音楽之友社、一九九八年)。

この間、一九七九年より一九九四年まで、大修館書店の月刊誌「言語」に、カラー口絵と文章による「映像の言語」を一九一回にわたり連載。一方、ミシュラン・グリーン・ガイド日本語版の顧問を務める傍ら、『パリ』、『イーランド』、『フランス』、『ロワール河の城』、『プロヴァンス』、『オーストリア』、『ドイツ』の共訳に従事。近く『時事仏和辞典』(共編)を刊行の予定。

(稲生 永編)